

ハブハブハー

とくちょうをいかして生きる

1年 M・Kさん

ぼくは「ハブハブハー」という本をよみました。この本はハブの子どものハーがしゅじんこうのものがたりです。ブハーは一人ぼっちでいることがさびしくて友だちがほしい、いっしょにあそびたいと思っています。ブハーは自分にどくがあるため他のどうぶつといっしょにいられないのだとかがえて、ひっしでどくが出るばしょをふさごうとします。

ぼくはこの本をよんで、ブハーがどくがあるという自分のとくちょうをなくそうとしていたことが一ばんきになりました。ブハーはとくちょうがあるままではほかのどうぶつと仲よくすることはできなかったのでしょうか。ぼくは、とくちょうをもっている、いばしょをみつけれられるようにおもいます。人げんの世界では体にしょうがいがあってもスポーツを楽しんだり、すばらしいきろくをのこす人がいて、活やくするすがたをみて、ぼくたちもゆうきやばんきをもらっています。パラリンピック・車いすテニスの小田せんしゅが、おもい車いすをうごかしながらもすごいスピードでボールを打ちかえすプレーをみて、とてもおどろきました。走ってプレーできるぼくは、ますます速かくくじつにうてるように、もっとたくさんれんしゅうしようとおもいます。

ぼくのいえの近くのコーヒーショップには耳がきこえない店いんさんがたくさんはたらいています。ちゅうもんするときに、手わがつかえなくても、大きくはっきりとくちびるをうごかすつつたわりやすいときいて、ぼくもやってみると、ちゃんとつたわって、うれしいきもちになります。

とくちょうがあってもなくても、したしくつながりあうことはできるのだとおもいます。ぼくは、とくちょうをいかすほうほうをさがして、みとめあって生きていきたいです。